＜実践報告・調査報告＞

グローバルコモンズにおけるアクティブラーニング実践報告
―「LINK」主導の英語ディスカッションイベントを通じた学生の成長実感―

杉江　昌子[1]

京都産業大学グローバルコモンズ（GC）では、主体的・協働的な活動を通じた学生スタッフの育成を目指し、2021 年 4 月、グローバルコモンズ学生ボランティアスタッフ「LINK」が始動した。LINK は、異文化や外国語について楽しく学びながら、学生同士をつなげる様々なイベントを実施している。イベント企画の立ち上げから準備･実施まで、メンバー同士が協力し合って学生主導で進める。英語ディスカッションイベント「Discussion in English（DiE）」は、「英語を話す場が欲しい」という学生を対象に、自分の意見や思いを英語で発信しながら学生同士の交流を深める場を提供する。継続的な参加者も多く、開始当初から活発な活動を続けている。アンケート結果では、同イベントの企画と実施にかかわった学生の多くに、英語コミュニケーション力をはじめ、様々な面で成長実感が確認できた。本稿では、授業外で学生が自発的に参加する英語ディスカッションイベントの取り組みを、学生の主体的な学びを引き出すためのアクティブラーニング（AL）の実践例として取り上げ、活動概要と実績を報告する。また、活動を通じて得られた学生の成長実感を、AL の視点から考察する。

キーワード：英語ディスカッション、アクティブラーニング、成長実感、学生スタッフ、主体的な学び

1. はじめに

京都産業大学のグローバルコモンズ（GC）では、グローバルコモンズ学生ボランティアスタッフ（LINK）の主導で、語学力向上や異文化理解につながる様々なイベントを実施している。2021 年 4 月の始動以来、英語学習に関するイベントをはじめ、文化紹介や学生同士の交流イベントなど数多くのイベントを開催してきた。

中でも、英語ディスカッションイベント「Discussion in English（DiE）」は、開始当初から授業期間中は、週に 2 ～ 3 回のペースで開催し、毎週継続的に参加する学生も多く、好評を得ている。DiE は、コロナ禍において、学生自身が英語を使う場を求めて立ち上げたイベントである。「英語を話す場が欲しい」という学生を対象に、ディスカッションを通じて、英語をより実践的に活用できる場を提供することを目指している。英語学習を目的とする正課外のイベントにも関わらず、英語スキルの向上を目指して多くの学生が自発的に参加している。

開催中は、ファシリテータを担当する LINK 学生が提示するトピックについて、自分の意見や思いを英語で楽しく語り合う姿が見られる。自発的に日本語の使用はほとんどない。また、学期ごとに参加者のニーズや関心、ファシリテータの英語運用能力に応じて、進化しながら継続的に実施している。学期ごとに実施するアンケート結果では、同イベントの実施にかかわった学生と参加者の多くに、英語コミュニケーション力をはじめ、様々な面で成長実感が確認できた。

本稿では、授業外で学生が自発的に参加する英語ディスカッションの取り組みを、主体的で能動的な学びを引き出すための AL の実践例として取り上げ、その活動概要と実績を報告する。また、活動を通じて得られた学生の成長実感を、AL の視点から考察する。

2. LINK 活動を通じたアクティブラーニング

本章では、AL の重要性について述べる。また、先行研究を基に、語学学習における対話的な活動の有用性についても概観する。その後、GC における LINK 活動を通じた取り組みについて確認する。

[1] 京都産業大学　教育支援研究開発センター事務室　グローバルコモンズ

2.1. アクティブラーニングとは

平成 24 年に中央教育審議会による「大学教育の質的転換」（答申）において、知識伝達型の受動的な教育から、学生の主体的・能動的学習への変換が提唱されて以来、大学をはじめとする教育現場では、AL の視点からの指導法や学習法の研究や開発が進むと同時に、授業内外で、主体的かつ能動的な深い学びを実現するための実践的な取り組みが様々な形で行われている。

AL の定義は幅広く、実践スタイルも多岐にわたる。渡部（2020）は、AL を「プレゼンテーションやディスカッションのようなさまざまなアクティビティ（学習技法）を介して、学習者が能動的に学びに取り組むこと」と説明したうえで、AL への移行に必要なツールとしてアクティビティ（学習技法）の重要性を強調している。つまり、学習者はブレインストーミング、リサーチワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなど、対話型のアクティビティへの参加を通じて、自立的な学びを経験するとしている。

また、AL の有用性を示す理論的根拠として「ラーニングピラミッド」がある（三省堂 2015）。図 1 のように、「ラーニングピラミッド」では、「グループディスカッション」「実践的な活動を経験する」「人に教える」という学習法で、講義や文献、視聴覚教材等から得た知識の定着率が大幅に上がるとされている。つまり、受動的な環境で学んだことを対話的な環境でアウトプットすることによって、より深い学びを得る可能性が高まることを示している。

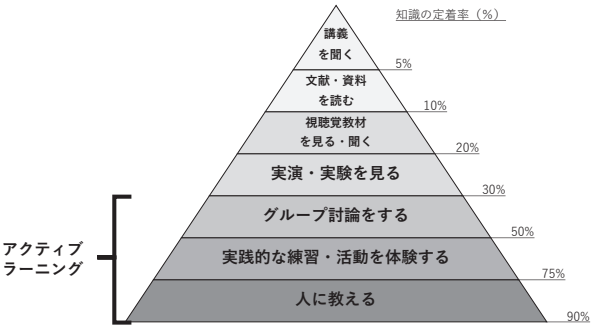

図 1. ラーニングピラミッド

（アメリカの教育学者エドガー・デールの「経験の円錐」をもとに作られた学習経験の模式図）

学習におけるインプットとアウトプットの果たす役割については、これまで第二言語習得の分野において、多くの理論研究と実証研究がなされてきた。

Krashen（1985）は、「人が言語を習得する方法は、メッセージを理解することによる」と主張し、「理解可能なインプット（comprehensible input）」が十分に与えられれば、言語習得は可能との仮説を立てた。

その後、Long（1996）は、言語習得にとってインプットは必要だが、それだけでは十分ではなく、「相互交流（interaction）」がインプットの効果を高め、習得を促進すると主張した。Long（1996）は、さらに、コミュニケーションにおける「意味の交渉（negotiation for meaning）」の重要性も強調している。つまり、実際の対話の中で、相手に理解を示したり、意味を確認するためのフィードバックや質問を与えたり、言い換えたりしながら、互いに理解しようとする「相互交流」こそが重要であるとしている。この理論は、現在、コミュニケーションやタスクをベースとした英語教育に活かされている。

上述の研究は、学生の学びや成長を促進するためには、対話型の活動を通じて、学生同士が互いに話し合ったり、教え合ったりする機会を意図的に作ることが有効であることを示唆している。さらに、英語学習では、授業や教科書から学んだ文法・語彙の知識を使って実際に対話する経験を持つことが、英語コミュニケーション力向上のための重要な要素であることがわかった。

2.2. グローバルコモンズにおける LINK 活動の概要

2.2.1. LINK 活動の背景

京都産業大学グローバルコモンズ（GC）は、文科省国際化拠点事業の採択に伴い、2016 年 4 月、外国語学習と異文化理解を促進する目的で開設された。常駐する学習支援員が、英語個別学習相談と定期的なワークショップを通して、語学学習・異文化理解に特化した学習支援を提供している。

同時に、開設当初から 2019 年度までは、英語運用能力の高い日本人学生や交換留学生を学生アルバイトスタッフ（GCS）として採用し、希望する学生がいつでも GCS と英語で会話ができる環境を提供していた。しかし、2020 年度は、コロナ禍で GC が閉館し、交換留学生の受け入れができない状況下で GCS の活動も休止した。その間「学生スタッフの育成」という観点からその在り方を見直し、より自主的かつ能動的な活動へと移行を図った。

2021 年 3 月、GC の学生ボランティアとして自発的に活動を希望する学生の募集をし、同年 4 月、1 期生 11 名で、グローバルコモンズ学生ボラン

ティアスタッフ「LINK」の活動が始動した。愛称の「LINK」には、「つながり」や「絆」という意味を持つ “link” にちなんで、「人のつながりが希薄になっている今、GC を訪れる人達をつなぐ “ 結び目 ” のような存在になりたい」という学生の思いが込められている。

2.2.2. LINK のミッションと学生ボランティア像

GC における LINK のミッションは、「GC で開催するイベントを通じて学内にグローバルマインドを広めること」である。また、GC が求める学生ボランティア像として、「母語以外の様々な言語を積極的に話したい人」「異文化や他者理解に関心があり、多様性を受け入れられる人」「グローバルマインドを広めることに意欲的な人」という 3 点を掲げている。ただし、応募段階で語学レベルの条件を設けず、活動を通じて自らが積極的に語学力を伸ばす意欲のある学生を対象としている。

2.2.3. LINK 登録者：人数と属性

2021 年春学期に、1 期生 11 名で活動を開始した。同年秋学期に 2 期生を募集し 32 名に増え、2022 年春学期に 3 期生を募集し 40 名となった。

2022 年春学期終了時点の人数と属性を表 1 に示す。学年別では、3 年生が最も多く 17 名であった。学部別でみると、外国語学部が最も多く 11 名、次いで、国際関係、文化、経営の 3 学部が、各学部 7 名であった。理系学部の登録者は無かった。

表 1. 2022 年春学期　LINK 登録者（人数と属性）
登録者数　40 名

＜学年別＞

1 年	2 年	3 年	4 年	大学院	留学生
9	9	17	3	1	1

＜学部別＞

経済	経営	法	現代社会	国際関係	外語
2	7	2	2	7	11
文化	理	情報理工	生命	大学院	留学生
7	0	0	0	1	1

（2022 年 7 月時点）

2.2.4. LINK と学習支援員の協働

LINK の活動について共通認識を図るため、活動の全体像を概要図（図 2）にまとめて提示している。

LINK の主な役割は、語学力向上や異文化理解につながるイベントを企画・実施することである。イベント企画は、LINK による学生目線での提案から始まる。「現在学生はどんなことで困っているか」「自分はどんなイベントに参加したいか」など、学生のニーズを掘り起こし、テーマや内容を絞り込む。その後、イベント内容に関するリサーチ、資料の作成、役割分担の決定や日程調整など、実施に向けた具体的な準備を LINK 同士が協力し合って進めていく。

GC の学習支援員は、Learning Session（事前研修）を通じて、イベントの立て方や準備の進め方等について基本情報を伝える。学生から企画の提案を受けた後、打ち合わせや普段の会話を通じて、助言やフィードバックの提供、実施環境の調整など、イベントの実現に向けて具体的なサポートをする。活動を見守りながら、学生の声に耳を傾け、モチベーションを高めるための声かけを、対面やチャットで行うことも、学習支援員の重要な役割の一つである。上述のような、ブレインストーム、リサーチ、メンバー同士の情報交換や調整、プレゼンテーションを伴う一連の協働的で対話的な活動を通して、学生の「語学力」「多角的な視野」「主体性」の涵養を目指している。

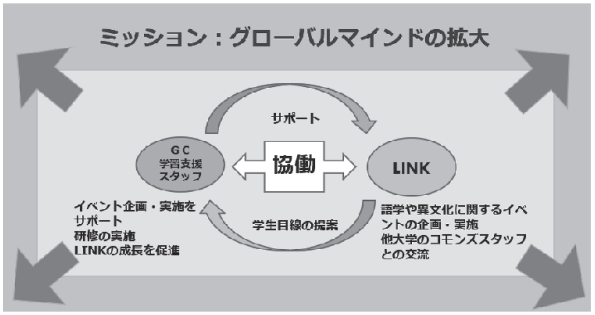

図 2.　LINK 活動の概要図

3. LINK 主導の英語ディスカッションイベント

3.1.「Discussion in English（DiE）」について

3.1.1. DiE の立ち上げ

「Discussion in English（DiE）」は、「授業で身に着けた英語を実践的に使う場を提供すること」を目的とする学生主導の英語ディスカッションイベントである。2021 年春学期に、1 期生 3 名が、学生のニーズを起点として立ち上げた。企画、準備、実施まですべて学生自身が主体的に行う。

同イベント立ち上げ時の打ち合わせから、準備、開催当日に至るまでの経緯を下記に述べる。

＜打ち合わせの様子＞

3 名は、Learning Session 開催時に、中上級者向けの英語イベント企画のために、オンライン上で初顔合わせをした。所属は、それぞれ、外国語学部スペイン語専攻（4 年）、経済学部（3 年 / 留

学生)、国際関係学部（3 年）と異なっていたが、英語運用能力は、共通して上級レベルであった。

LINK のイベント企画では、学生の主体性を重視するため、打ち合わせの司会進行を含め、すべて学生主導で進める。同イベントの企画時も、担当の学習支援員は、進行を見守りながら、必要な時に必要なだけのコメントや助言を行うのみとし、与えすぎないように極力気を配った。初対面でありながらも、初回の打ち合わせから活発な議論が交わされた。イベント内容の詳細を詰めいていく際、半ば、上級者のみに焦点を当てた難易度が高い内容に偏り過ぎていたので、中級者を含めた幅広い層の参加者を獲得するためにも、「自分たち（上級者）が望むイベント」に固執せず、「多くの学生たち（中級者）が参加しやすいイベント」へと視野を広げて検討をするようにアドバイスをした。

＜話し合ったこと＞

まず、「留学に行きたいけど行けない」「留学生との交流なし」「授業以外で英語を話す機会ほとんどなし」「英語力低下に不安を感じる」など、コロナ禍での英語学習環境の問題点を挙げ、「英語を話す場」のニーズが、学生たちの間で高まっていると分析した。これを起点とし、「授業で身に着けた英語を実践的に使う場を提供すること」を目的とし、毎回異なるテーマを設定して英語でディスカッション行うイベントを毎週定期的に開催するということで、3 名の意見が一致した。

3 ～ 4 月初旬にかけて 1 回 2 時間程度の打ち合わせを 3 回、すべてオンラインで行った。レベル設定、各レベルで扱うトピック、開催日時、頻度、1 回の時間、担当レベル、コロナ対策などについて、詳細を詰めていった。ポスターの製作も、初版は学生に任せ、手直しも最小限とした。4 月中旬に実施に向けたリハーサルを対面で行い、開催当日に備えた。リハーサルでは、改善点や注意点について、必要最低限のフィードバックを与えるのみとし、後で本人たちが自ら気づいて修正していけるであろうと思われる点については、触れずにおいておいた。

＜ DiE のスタート＞

コロナの状況により、初回開催前日に、入構禁止となり、急遽対面からオンラインに変更してのスタートとなった。開始当初から、各レベル、毎回 3 ～ 4 名の参加あり、そのほとんどが継続的に参加するようになった。

3.1.2. 実施概要

DiE の開設当初からの実施概要は下記のとおりである。開催時間、開催頻度、レベルについては、学期ごとに担当ファシリテータ同士が調整して決定する。

【対象】 全学生

【実施内容】 ファシリテータが提示するトピックについて英語で議論や意見交換をする。その後、参加者同士の交流のためのチャットタイムを設ける

【開催時間】 担当ファシリテータの授業の空コマで調整

（2 限、3 限、4 限での開催が多い）

【開催頻度】毎週 2 ～ 3 回 （火、水、木の開催が多い）

【開催場所】オンライン開催：MS Teams

対面開催：GC 内オープンクラスルーム

【開催レベル（変遷）】

・2021 年春学期、「中級」「上級」2 レベルでスタート

・2021 年秋学期、「初級」増設

・2022 年春学期、国際関係のトピックを扱う「Dig Into International Issues（DIG）」新設

・同学期 6 月、DiE 初級を見直し、「Enjoy English（EE）」新設

3.1.3. イベント当日の流れ

開催中は、各レベル、概ね下記のような流れで進む。

① アイスブレイク： 参加者全員で軽く自己紹介した後、希望レベルに分かれる。

② ディスカッション： ディスカッション中は、レベルごとに 4 ～ 5 名のグループで車座になり、ファシリテータが提示するトピックについて、英語で議論や意見交換を行う。初級レベルでは、英語ゲームをしたり、身近な話題でチャットを行う場合もある。
ディスカッションにかける時間は、初級・中級レベル 30 分、上級レベル 45 分と設定している。

③ チャットタイム： ディスカッション終了後、30 分間の英語によるチャットタイムを設けている。リラックスした雰囲気で、自由に会話を楽しむ。参加者同士が情報交換をしたり、交流を深める時間となっている。

3.1.4. 国際関係問題ディスカッションイベント「Dig into International Issues（DIG）」

2022 年春学期、DiE の立ち上げメンバーのうちの 1 人（国際関係学部 4 年）が、国際関係問題に特化したトピックを扱う英語ディスカッションイベント「Dig into International Issues（DIG）」を新たに立ち上げた。

＜イベント立ち上げの動機＞

・国際関係学部には、国際関係問題について英語で議論する授業があるが、3年次からのみ履修可能

・授業であるために一度履修すれば再度履修不可

・国際関係問題について自由に議論し合う機会を求める同学部の学生が多い

・上記の理由で、イベントには、国際関係学部の学生のほか、他学部からの参加も含め、新規参加者が見込まれる

【対象】　英語上級レベル

【実施内容】国際関係のトピックについて英語で議論するディスカッションイベント。国際情勢や国際問題などを扱う。

トピック例：人権や環境問題への企業の取り組みは必要か？代替肉は環境問題を改善するのか？

【開催頻度･時間】DiEの開催日　週1～2回　45分

【当日の流れ】アイスブレイク⇒ディスカッション⇒チャット

【参加状況】国際関係学部の学生やDiE上級の参加者、ファシリテータ、留学生が参加し、毎回活発な議論が交わされた。

3.1.5. 初級ディスカッションイベント「Enjoy English（EE）」

2022年春学期6月、「DiE初級」の内容を見直す必要性を感じたファシリテータ2名（外国語学部　英語学科）の提案で、「Enjoy English（EE）」として新たに立ち上げた初級者向け英語イベントである。

＜イベント立ち上げの動機＞

・初級参加者が、人数調整のため中級に参加する場合があるが、話す機会がないまま終わってしまうことが多い

・レベル差があるとディスカッションを回しにくい

・「Discussion in English」というタイトルが、初級者には敷居が高く感じられる

【対象】初級～中級

広報ポスターでは、参加条件として「英語で話したい気持ち」と示した。

【実施内容】自分の経験に基づく日常的なトピックで英会話を楽しむ。英語ゲームも取り入れる。

【開催頻度・時間】DiEの開催日　週1回　30分

【当日の流れ】　アイスブレイク⇒チャット

【参加状況】初級の新規参加者が増加した。中級から初級へレベル変更する学生もいた。

表2.　英語ディスカッションイベント 各レベルの内容とトピック例

	イベント　タイトル	内容	トピック例
上級	Dig Into International Issues（DIG）	国際関係問題に関するトピックを扱う	Aging Society and the Future Racism and Diversity Energy Crisis
	DiE（上級）	政治や倫理観、環境など幅広い分野の問題や改善策について議論する	Pros and cons of 24-hour operation of convenience stores What are good leadership qualities?
中級	DiE（中級）	気軽に意見を述べられるトピックを扱う ・トピックは、日常的なものから社会的なものまで幅広く取り上げる ・自分の知識や経験に基づいて理由付けをして意見を言う	Which do you prefer, cats or dogs? What is the most successful experience in your life?
初級	DiE（初級）	身近な話題で英語に親しむ ・過去の経験、好きなもの、趣味など日常的なトピック ・自分の中に答えがあって、発言しやすいトピック	My favorite food /restaurant / YouTube channel Bucket list in your college life
	Enjoy English（EE）	ディスカッションという形にこだわらず、ワードウルフなどの英語ゲームや身近な話題で英会話を楽しむ	What do you do in your free time? What did you do last weekend?

3.1.6. ディスカッションの内容とトピック

2022 年春学期に開催した英語ディスカッションイベントのレベルごとの内容とトピック例を表 2 にまとめた。

3.1.7. ディスカッション開催中の学生の様子

ディスカッション開催中は、ファシリテータを担当する LINK 学生が提示するトピックについて、自分の意見や思いを英語で語り合う真剣な姿が見られる。日本語の議論にすら慣れていない多くの学生にとって、英語で意見を述べ合うことは決して容易なことではないはずである。しかし、開始後は、自発的に日本語の使用はほとんどなくなる。そして、ファシリテータと参加学生の双方に、やらされ感は見られない。自らの英語に関する目標達成を目指して、互いに教え合い、学びあう姿が見られる。

全レベルに共通して、ファシリテータは、グループの全員に話す機会が与えられるように気配りをしながら、会話の橋渡しをする。話し手は、思いつく英語表現を駆使して身振り手振りを交えながら、自分の意見を伝えようとする。そして、聞き手は、それに耳を傾け一生懸命に理解しようとする。また、ファシリテータは、レベルに合わせた問いかけや言い換えをしながら、聞き手の理解や別の立場からの意見を促す。

特に初級と中級のディスカッションにおいて、ファシリテータのサポートが不可欠である。初回は英語を人前で話すことに慣れず、おとなしかった学生が、ファシリテータのサポートのもとで、回を重ねるごとに、詰まったり間違ったりしながらも、英語で言いたいことを伝えようとする前向きな姿勢へと変化していくケースが多く見られた。

また、2022 年春学期には、数名の交換留学生が、定期的に DiE の上級や DIG に参加した。交換留学生が加わることで、イベントが異文化交流の場となり活気づいた。ファシリテータから、自国と他国の比較をしながら、さらに広い視野で深い議論ができたとの声があった。

写真 1. ディスカッションの様子

3.2. 運営について

3.2.1. 学期ごとの実施状況と対応

イベントを継続的に開催していくためには、英語運用能力が高く、意欲のあるファシリテータの確保が必須である。また、ファシリテータのモチベーションを維持するため、特定の学生のみに負担をかけず、希望すれば誰もが個々の能力や専門に応じた貢献ができる環境を整えるように配慮している。そのためには、学期ごとに学生の状況（卒業、就活、留学、進学等）を把握した上で、ファシリテータの数や担当可能レベルを確認し、事前に調整していく必要がある。また、コロナ禍における実施状況、参加者の人数の増減や参加希望レベルなど、不確定な要素に関しては、ファシリテータと相談しながら臨機応変な対応を行っている。

DiE を開催した 3 学期間における実施状況の変化と対応を表 3 に示す。

3.2.2. 参加者増加の要因

表 3 に示す通り、DiE の参加者数は、学期ごとに大幅に増加した。開設当初の 2021 年春学期に 210 名であったが、秋学期に 399 名に増え、さらに、2022 年春学期には 751 名と、学期中の参加者数が 1 年半で 3.6 倍に増えた。このように学期ごとに参加者が約倍増した理由として、参加者の大半が、週に 1 ～ 3 回の頻度でほぼ毎週継続的に参加する、いわゆるレギュラー参加者であったことがあげられる。また、レギュラー参加者が友人を誘って参加することも多かった。ファシリテータ自身が SNS 等で参加者とつながり、開催前に声掛けをしたことも増加の要因の一つと考える。

しかし、声掛けや口コミだけでは、継続参加にはつながらない。初回参加時に、多くの学生が、「楽しい」「続けるとためになる」と感じたことが、継続参加につながったと考える。

表 3.　学期ごとの実施状況と対応

学期	2021 年　春	2021 年秋	2022 年春
開催レベル	DiE （中級　上級）	DiE （初級　中級　上級）	DiE（初級　中級　上級） ※初級は 6 月以降 Enjoy English へ移行
			Dig Into International Issues（DIG） （上級対象：国際関係のトピックを扱う）
			Enjoy English（EE）　※6～7 月開催 （初級対象：英語ゲームや気軽なチャットを楽しむ）
開催方法	オンライン ※7 月から対面開始	対面	対面
ファシリテータ（人数）	3 名	6名	10名
参加人数（4～7 月延べ）	210 名	399 名	751 名 （DIE：429 名 / DIG: 273 名 / EE: 49 名）

学期ごとの状況と対応

➡ 2021 年春学期の状況と対応

・3 月、LINK1 期生 3 名の企画会議
・3～4 月、開始に向けた打ち合わせとリハーサル
・入構禁止によりオンラインでスタート
・7 月以降は対面開催へ変更

➡➡ 2021年秋学期の状況と対応

・9 月、LINK2 期生の中から 3 名が加わる
・ファシリテータが 6 名に増えたことで「初級」増設
・1 期生によるトレーニング実施（学生主導）
・10 月以降、中級、上級レベルの参加者増加
・上級レギュラー参加者（1 名）に初・中級のファシリテーションを担当依頼
・10 月下旬、中級・上級レベル担当可能な LINK を募集
　→DiE 参加者の中から応募があった 6 名を LINK3 期生として登録
・新人ファシリテータ（6 名）へ引継ぎトレーニング実施（学生主導）
・2～3 月　卒業・留学等の理由により、ファシリテータ4名減

➡➡➡ 2022 年春学期の状況と対応

・4 月、2 名（LINK1 期生 1 名と留学生 1 名）がファシリテータに加わる
・4 月、1 期生が国際関係ディスカッション「DIG」を新設
・6 月以降 DiE 初級の内容見直し→初級者が参加しやすい「Enjoy English」を新設
・秋学期に、ファシリテータのうち 6 名の留学決定
・6～7 月、参加者の中から、英語運用能力の高い3名をファシリテータに加わる
・新人 3 名への引継ぎトレーニング開始

3.2.3. 新規ファシリテータへの引継ぎとトレーニング

LINK の 2 期生以降は、DiE の参加者が LINK に応募し、その中で英語運用能力が高いものがファシリテータとなる場合が多い。新人ファシリテータが加わった際のトレーニングやサポートも学生主導で行っている。

新人ファシリテータの中には、参加者からファシリテータへと立場が変わった途端に、いつもと同じメンバーでディスカッションをする場合でも、大きな緊張とプレッシャーを感じて戸惑う様子がしばしば見受けられた。そこで、先輩ファシリテータがトレーナーとなり、トピックの選び方や質問の仕方、会話に詰まって沈黙する参加者への対応など、自身の経験に基づいて、必要な情報やノウハウを共有する機会を設けている。また、デビュー前にリハーサルを行ったり、最初の数回は先輩ファシリテータと一緒にグループを担当したりしながら、独り立ちするまでに、段階的に役割に慣れていくようにしている。

DiE の運営にかかわる学生同士の交流によって、引継ぎがムーズに進むだけでなく、先輩と後輩の両方に、ファシリテータとしての自覚が生まれ、LINK や DiE の活動に、より熱心に取り組んでいこうとする姿勢が育つことが確認できた。ファシリテータの視点で、参加者を違う角度から観察することが、参加者のニーズに沿った改善案の提案や DIG、EE などの新たなイベント増設へとつながったと考える。

4. 学生の成長実感

学期ごとに、LINK 全員を対象とする「LINK 活動振り返りアンケート」と英語ディスカッションイベントの参加者を対象とする「参加者アンケート」を実施している。2022 年春学期は、上記に加え、英語ディスカッションイベントでファシリテータを担当した学生のみを対象とした活動振り返りアンケートも実施した。

この章では、「DiE ファシリテータ振り返りアンケート」と「英語ディスカッションイベント参加者アンケート」の 2 種類のアンケートを取り上げ、実施概要と結果について、学生の成長実感と満足度に関わる項目を中心に報告する。

4.1. DiE ファシリテータ振り返りアンケート

2022 年春学期に英語ディスカッションイベントにおいてファシリテータを担当した学生を対象に、活動を振り返るためのアンケートを実施した。

【実施概要】
調査対象：2022 年春学期に DiE、DIG、EE においてファシリテータを担当した 10 名
調査期間：2022 年 9 月下旬～ 10 月中旬
実施方法：Microsoft Forms
回答者数：8 名（回答率 80%）
質問項目と回答は、表 4 のとおりである。

【結果と考察】
アンケートの結果について、成長実感と満足度に関わる質問項目を抜粋して表 4 にまとめた。

① 語学面での成長実感

まず初めに、Q3 で「ファシリテータの経験から成長と学びを得たか」という質問に対し、回答者 8 名全員が、「当てはまる」と回答していることから、回答者全員が、ファシリテータとしての活動から何らかの学びと成長を得ていることが確認できた。

Q4 では、語学面、特に英語力の向上について、12 項目を挙げ、5 段階で回答を求めた。

項目 1 と 6 では、回答したファシリテータ 8 名全員が、「英語力の全体的な向上」と「スピーキング力の向上」を実感していることが確認できた。また、項目 7 と 9 から、8 名中 7 名が「間違いを気にせず話せるようになった」「詰まらずに話せるようになった」など、Fluency（流暢さ）の向上を実感していることもわかった。項目 4，5、8 においても、ほぼ全員（7 ～ 8 名）が、「以前より英語の語彙表現が増えた」「意見や思いが正確に表現できるようになった」「パラフレーズができるようになった」と回答しており、ファシリテータの役割は、「語彙・表現の豊かさ」や「正確さ」の面でもプラスの効果をもたらすことが確認できた。

ファシリテータは、ディスカッション中に参加者のレベルに応じた問いかけや言い換えなどのサポートをする。その経験から、スピーキング力だけでなく、正確に相手に意味を伝えるための語彙表現力も身についたのではないかと推察する。

② 語学以外での成長実感

Q6 では、語学面以外の成長に関する 14 項目を挙げ、5 段階で回答を求めたところ、すべての項目において、8 名全員、もしくは 7 名が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した。

まず、項目 1 と 3 では、「交友関係がひろがった」「人と関わることに意欲的になった」との回答から、ファシリテータとして、初対面の人に話しかける機会も多く、自ずと対人関係面でプラスの影響があったと推察する。項目 4 と 5 で、「人前で話すことに慣れた」「自分の意見を言うことに慣れた」との回答から、ファシリテータとしての経験を通じて、「発信力」が高まったと考えられる。また、項目 2，6，8 では、「周囲に気が配れるようになった」「他人の意見に耳を傾けられるようになった」「他者に提案や助言ができるようになった」など、「他者理解」に関わる面での成長が見られた。

その他にも、項目 9 にあげる「リーダーシップ能力」や項目 12 の「異文化理解」において、学生の成長実感を確認できた。

以上の結果からもわかる通り、ファシリテータを担当する学生は、語学以外にも対人面や発信力をはじめとする様々な面で成長を感じている。そして、項目 14 では、その経験を他の活動へも活かすことができているということが確認できた。

③ 活動への意欲と満足度

ファシリテータとしての役割への意欲と満足度についての質問（Q1,Q8）への回答結果を見ると、

8 名全員が、意欲的に取り組み、LINK としての活動に満足していることが確認できた。また、現在留学中の学生を含む全員が、秋学期以降も引き続き LINK 活動の継続を希望している。

4.2. 英語ディスカッションイベント参加者アンケート

毎学期終了後に、英語ディスカッションイベントの参加者を対象に、イベントへの満足度を確認するための参加者アンケートを実施している。2022 年春学期も、同様の参加者アンケートを実施した。

【実施概要】
調査対象：DiE、DIG、EE に参加した学生
実施期間：7 月末～ 8 月中旬
実施方法：Microsoft Forms
回答者：20 名
質問項目と結果は、表 5 の通りである。

【結果と考察】
DiE 参加者アンケートの結果を表 5 にまとめた。

まず、回答者の参加状況を確認しておく。Q2 から、回答者 20 名のうち 17 名（85%）が、週に 1 ～ 3 回の頻度でほぼ毎週参加する、継続参加者であることがわかる。また、Q3 から、回答者のうち 13 名が、DiE 中級の参加者であること、また、回答者は、複数のレベルまたはイベントに参加したことが確認できる。

① 語学面での成長実感

まず初めに、Q4 の「DiE に参加することで、成長と学びを得たか」という質問に対し、回答者 20 名全員が「当てはまる」と回答しており、回答者全員が DiE に参加することで、何らかの学びと成長を得ていることが確認できた。

Q5 の「どのような点で学びや成長を感じるか」という質問の中で、語学に関する項目で最も回答が多かったのは、「英語を話すことが楽しくなった（15 名）」であった。次いで「英語のスピーキング力が伸びたと感じる（13 名）」「英語を話すことに慣れた（13 名）」「英語を話すことに自信がついた（12 名）」「コミュニケーション力がついた（12 名）」と続く。以上の結果から、DiE が参加者にとって、英語のスピーキング力の向上の場を提供できたことが確認できた。一方で、「英語の語彙力がついた」と回答した学生は 6 名にとどまった。

また、回答結果には表れていないが、1 年間継続的に参加した学生の中に、IELTS のスピーキングのスコアが、大幅に伸びたものもいる。

② 語学以外での成長実感

次に、語学以外の面の項目を見ると、「交友関係が広がった（16 名）」が最も多かった。また、「知識や情報を得られた（10 名）」との回答も半数に上った。これは、ディスカッションやチャットタイムが、参加者同士で交流を深め合ったり、情報交換をする場となっているからだと考える。

③ 参加者の満足度

次に、英語ディスカッションイベントに対する参加者の満足度を見ていく。

Q6 の、自身が参加したイベントへの満足度についての質問に対し、回答者全員（20 名）が、「満足している」か「どちらかといえば満足している」のいずれかを回答し、参加者の満足度は、100％となった。

Q7 では、Q6 の回答の具体的な理由をきいた。満足度の理由として、「英語で話す機会が得られたこと」が目立った。また、「交友関係が広がったこと」や「知識を得られたこと」との回答も多かった。また、「留学に行くきっかけをくれた」「自発的に英語に取り組むことができた」「日々成長を感じることができるから」など、自分自身の学びや意欲、成長にプラスになったとの回答も見られた。そのほか、「英語を話すことで、日本語より近い距離間でコミュニケーションが取れるため」との回答もあった。

5. まとめと考察

本稿では、GC における LINK 主導の活動について、英語ディスカッションイベント「Discussion in English」に焦点を当て、実施概要と実績、及び、アンケート結果に見る学生の成長実感を報告した。ここでは、学生の成長実感に基づく DiE の成果を AL の視点から考察する。

第一に、DiE が学生の「英語力、特に英語スピーキング力の向上」につながったことである。DiE の参加者の大半は、毎週参加するレギュラー参加者である。その多くが英語スピーキング力の向上を実感していることがアンケート結果で確認できた。また、ファシリテータに関しては、「英語力が全体的に向上した」と感じている。

その要因として、「英語で交流できる場」を学生の望む形で提供できたからではないかと考える。DiE は、学生自身のニーズを起点に「授業で身に着けた英語を実践的に使う場」を提供することを目的として立ち上げたイベントである。学生自身

表 4. DiE ファシリテータの振り返りアンケート（抜粋）

Q1.「Discussion in English」「Dig into International Issues」「Enjoy English」でのファシリテータとしての役割に意欲的に取り組めましたか

そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
7	1	0	0	0

Q2. 参加レベルについて：あなたが今学期参加したイベントはどれですか （複数回答可）

【Discussion in English 上級】	4
【Discussion in English 中級】	11
【Enjoy English 】【Discussion in English 初級】	5
【Dig into International Issues 】	9

Q3. ファシリテータの経験を通じて、成長や学びをを得られましたか

当てはまる	どちらともいえない	当てはまらない
8	0	0

Q4.【語学面についての質問】ファシリテータとしての経験を通して、語学面においてどのような成長を感じましたか。

	項目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらとも いえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	英語のスキルが全体的に向上した	6	2	0	0	0
2	英語を話すことに慣れた・自信がついた	7	0	1	0	0
3	英語を話すときに、文法を意識するようになった	5	1	2	0	0
4	自分の意見や思いがより正確に表現できるようになった	5	3	0	0	0
5	英語の語彙や表現が増えた	4	3	0	1	0
6	英語のスピーキング力が向上した	7	1	0	0	0
7	以前より詰まらず英語が話せるようになった（Fluency の向上）	6	1	1	0	0
8	難しい言葉は、言い換え（パラフレーズ）ができるようになった	5	2	1	0	0
9	英語を話すときに間違えを気にせず話せるようになった	4	3	1	0	0
10	検定試験の準備にも役に立った（IELTS のスコアが上がった）	4	3	1	0	0
11	英語学習への意欲が高まった	6	1	1	0	0
12	英語のリスニング力が向上した	4	1	2	1	0

Q6.【語学以外についての質問】ファシリテータとしての経験を通して、語学以外の面においてどのような成長を感じましたか。

	項目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらとも いえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	交友関係がひろがった	8	0	0	0	0
2	周囲に気が配れるようになった	5	3	0	0	0
3	人と関わることに意欲的になった	5	2	1	0	0
4	人前で話すことに慣れた	5	3	0	0	0
5	自分の意見を言うことに慣れた	4	4	0	0	0
6	他人の意見に耳を傾けられるようになった	6	2	0	0	0
7	他の人と協力をして活動することに慣れた	6	2	0	0	0
8	他者に提案や助言ができるようになった	5	2	1	0	0
9	リーダーシップ能力が向上した	5	2	1	0	0
10	興味関心の幅が広がった	5	2	1	0	0
11	以前よりニュースを見たり新聞を読んだりするようになった	4	3	0	0	0
12	異文化に関する理解が深まった	6	2	0	0	0
13	新たなことにチャレンジしようという意欲が高まった	6	1	1	0	0
14	ファシリテータとしての経験を、その他の活動（授業、留学、進学、就活など）に活かすことができている。	5	3	0	0	0

Q8. LINK 活動全般についての満足度をお答えください。

満足している	どちらかといえば 満足している	どちらとも いえない	どちらかといえば 満足していない	満足していない
7	1	0	0	0

表 5. 英語ディスカッションイベント　参加者アンケート

Q1.LINK主催の英語ディスカッションイベントに参加したきっかけは何でしたか（覚えている範囲でお答えください）

POST	5
学内掲示のポスター	0
GCのチラシ	2
友人・知人に誘われて	8
教員・職員に勧められて	0
GCで開催中のイベントを見て	3
SNS	1
その他	1
合計	20

Q2.秋学期の参加回数/頻度についてお答えください

ほぼ毎週（週３回）	5
ほぼ毎週（週２回）	5
ほぼ毎週（週１回）	7
月に１～２回程度	3
学期に１～２回程度	0
学期に３～５回程度	0
合計	20

Q3.参加レベルについて：あなたが今学期参加したイベントはどれですか（**複数回答可**）

【Discussion in English　上級】	5
【Discussion in English　中級】	13
【Enjoy English 】【Discussion in English　初級】	7
【Dig into International Issues 】	9
合計	34

Q4.ディスカッションイベントに参加することで、成長や学びをを得られましたか

当てはまる	20
どちらともいえない	0
当てはまらない	0
合計	20

Q5.Q４で「当てはまる」と答えた方は、どのような点で学びや成長を感じますか（**複数回答可**）

英語のスピーキング力が伸びたと感じる	13
英語のリスニング力が伸びたと感じる	11
英語を話すことに慣れた	13
英語を話すことが楽しくなった	15
英語を話すことに自信がついた	12
英語の語彙力がついた	6
コミュニケーション力がついた	12
プレゼンテーション力がついた	2
検定試験（IELTSなど）のスコアが伸びた	3
問題解決力がついた	3
文章作成力が身についた	2
論理的思考力が身についた	5
知識や情報を得られた	10
専門分野の知識が深まった	6
様々なことへ興味や関心の幅が広がった	8
交友関係が広がった	16

Q6.「Discussion in English」「Dig into International Issues」「Enjoy English」について、自分が参加したイベントの満足度をお答えください

とても満足している	18
どちらかといえば満足している	2
どちらともいえない	0
どちらかといえば満足していない	0
全く満足していない	0
合計	20

Q7.Q6 の答えの理由を具体的に教えてください。

・たくさんの人と交流できて楽しかったです。
・このイベントに約1年半参加して、英語で話す力や自信がついた。また様々なテーマに触れることができて、日々成長を感じることができるから。
・留学にいくきっかけをくれた。
・理由は、英語をアウトプットする機会を提供して頂けることや、様々な学部等の方々と、様々なトピックについて英語で会話でき、様々な知識等を得られること等です。
・たくさんの学部から、いろんな興味関心を持った人たちと簡単な話題(趣味など)から国際問題まで幅広い話題について、話すことができて自分の教養、興味、交友関係が広がったと感じるから。
・英語を流暢に話される方ばかりで、刺激的だったため。国際問題について知識などが増えたため。
・普段日本で生活していて英語は話さないので、英語を使う機会を提供してくれてありがたいです。
・自分の好きな時間にイベントに参加出来たので、自発的に英語に取り組むことができたため。また、英語だけの時間なので非日常が味わえたため。
・国際関係に対するより知識や見解に多く持っているが、授業中や生活の中に表現する機会があまりないので、GCにおける Dig into のイベントは自分にとって貴重な議論の場となっている。
英語でのコミュニケーションを通して、自分の文化的背景を知ることができるだけでなく、多様な考え方を持つ学生とのうまくアサーションをとる姿勢も身につける。
英語を使って話すことで日本語より近い距離感でコミュニケーションが取れるため。

Q8秋学期のディスカッションイベントの開催方法は、対面かオンラインのどちらがよいですか

対面	17
オンライン	1
どちらでもよい	2
合計	20

Q9.今後取り上げてほしいトピックがあれば教えてください。

・さまざまなトピックに対して大学生としてどう思うか
・自分たちに身近なもの

Q10.その他、感想やコメントやリクエストがあれば、書いてください。

・今の自分があるのは本当にこのディスカッションのおかげだと思うので、感謝しています。特に、ファシリをしてくれたLINKの皆さん、お疲れ様でした！ありがとうございました！
・みんな楽しんで参加してくれてたみたいでよかったです。

Q11.夏休み期間中に、ディスカッションイベント（オンライン）を開催したら、あなたは参加しますか

はい	11
いいえ	2
わからない	7
合計	20

から発したニーズは、2.1 で確認した言語習得を促進する要素と合致している。

DiE 開催中は、与えられたトピックについて意見交換する中で、伝わらなかったときは、言い換えたり、たとえ話をしたり、相手に質問をしたり、説明を促したりしながら、何とか互いに理解しようと努力する場面が、どのレベルのディスカッションでも見られる。このような「意味の交渉」を伴う実践的な「相互交流」が、学生の英語スピーキング力の向上、ひいては英語コミュニケーション力の向上につながったと考えられる。

第二に、DiE を通じて、目的を同じくする学生たちが集い、互いに教え合い、学びあう場を提供できたことである。アンケート結果においても、DiE を通して「交友関係が広がった」ことを実感している学生が多かった。DiE の参加者が、友達や知り合いを誘うことで参加者が増え、次第につながりが広がっていった。

また、DiE は、学部や学科、学年、国籍が異なる者同士が、垣根を超えて交流する貴重な場となっている。多くの学生から「他の学部や学年の学生と議論ができたことがよかった」という声が聞かれた。DiE を通じて、多様な価値観を共有しながら「多角的な視野」を身に着けるきっかけを提供できたと考える。

さらに、DiE のレギュラー参加者が、ファシリテータから刺激を受けて、LINK に応募し、自らがファシリテータとなるケースも多く見受けられた。このように、DiE のファシリテータの活躍は、参加者へも波及し、「学内にグローバルマインドを拡大する」という LINK 活動のミッションに直結しているといえる。

第三に、DiE を通じたファシリテータの成長である。4.1 でも挙げた通り、ファシリテータの成長実感として、「英語力の全体的な向上」をはじめ、「対人関係」「発信力」「他者理解」「リーダーシップ」など様々な面での向上が確認できた。ファシリテータは、トピック選びのためのリサーチ、トピックに関する質問の準備、ディスカッション中の参加者への対応やサポートなど、幅広い経験ができる。このように多くの人が関わる協働的な状況で、ファシリテータとしての成功体験を一回一回積み重ねることで、本人の中に自信が生まれ、成長実感に結び付いたと考える。また、ファシリテータとして、DiE の運営に積極的に取り組むことで得た知識と経験を、授業や留学、進学、就職活動といった活動へも活かしていることがアンケート結果から確認できた。

以上のように、DiE に主体的にかかわる学生の多くが実感している学びと成長を基に、DiE の取り組みの成果を述べた。「英語を実践的に話す場が欲しい」という学生自身の要望から始まった DiE は、まさに「学生が学生のために生み出した AL の実践の場」であると考える。

最後に、今後の課題について数点あげる。まず、DiE を継続的に開催していくために、活動を支えるファシリテータの確保と育成があげられる。今学期だけでも、留学や就職活動などの理由で、ファシリテータの確保に苦慮する場面があった。また、ファシリテータによる活動の振り返りを基に改善点を見出し、レベル、トピック、実施時間、実施形態などについて、学生たちのニーズに合わせて、より参加しやすいイベントへと進化させる努力を継続的に行っていく必要がある。さらに、イベントの質の向上に向けて、個々のファシリテータが得た経験や学びを共有し合い、英語力や発信力を互いに高め合おうとする雰囲気を醸成することも大事である。とりわけ、ファシリテータとして得た経験やスキルを、後輩へと受け継いでいくための仕組みを構築することが急務であると感じている。

本稿では、GC における AL の実践例として、LINK 主導の英語ディスカッションイベントの取り組みと成果を報告した。今後も引き続き、学習支援の立場から、様々な課題を学生たちと共に乗り越えながら、DiE を学生の主体的な深い学びと成長につながるイベントとして進化発展させつつ継続できるよう支援を行っていきたい。

謝辞

本稿作成において使用した「英語ディスカッションイベント参加者アンケート」にご協力くださった学生の皆様、「DiE ファシリテータ振り返りアンケート」にご協力いただいた LINK の皆様に、厚くお礼申し上げます。また、本稿の作成にあたり、ご助言とご協力をいただいた、教育支援研究開発センター事務室の事務長、遠藤美由樹様をはじめ、川面なほ様、オフチャーチェク・ペトル様に、心より感謝申し上げます。

参考文献

遠藤美由樹, 杉江昌子（2022）「グローバルコモンズにおける能動的学習の実践：英語ディスカッションイベントを通じた学生の成長実感とその考察」大学教育学会第 44 回, 岡山.2022 年 6 月 5 日

Krashen, S.（1985）*The Input Hypothesis: Issues and Implications.* Longman, New York

Long, M.（1996）The role of the linguistic environment in second language acquisition. In Ritchie,W. & Bhatia,T.（eds）, *Handbook of Second Language Acquisition*. Academic Press, San Diego:413-468

文部科学省（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」 http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf（取得 2022.10.16）

三省堂（2015）「「アクティブ・ラーニング」とは」https://tb.sanseido-publ.co.jp/kokugo/Info/magazines/saizensen/pdf/saizensen02.pdf（取得 2022.05.25）

VanPatten, B.（2003）. From Input to Output: a teacher's guide to second language acquisition. McGraw-Hill, USA

渡部淳（2020）『アクティブ・ラーニングとは何か』岩波書店, 東京

Report on the practice of Active Learning at the Global Commons The students' experience of self-growth through a student-led English discussion event

Masako SUGIE[1]

The Global Commons Student Volunteer Staff "LINK" was launched in April 2021, intending to develop student staff through proactive and collaborative activities. LINK organizes various events to connect students while learning about different cultures and languages. Discussion in English（DiE）, an English discussion event, is designed to provide an opportunity for students who want to use English practically to communicate with others while expressing opinions and thoughts in English. The event has been popular with many participants continuing to attend. According to the surveys, many of the students involved in the event have shown growth in various areas, including English communication skills.

This paper presents the overview of the student-led English discussion event and its achievements as a practical example of active learning（AL）at the Global Commons. The paper also discusses the students' experience of self-growth obtained through the event from the perspective of AL.

KEYWORDS: Discussion in English, Active Learning, Self-Growth, Student Staff, Proactive Interactive and Deep Learning

2022 年 11 月 25 日受理

1 Global Commons, Center for Research and Development for Educational Support Office, Kyoto Sangyo University